

令和4年度 小学校教科担任制に係る学校の状況について

番号	学校名	専科教科	取り組むことで良くなった点	取り組むことで課題となっている点
例	〇〇小学校	算数・体育	児童に多くの教員が関わることで、児童理解が改善され未然防止に効果が出ているように思われる。	教科担任が入れ替わることで、授業規律に差が生じ、不安定な学級状況にあるクラスがある。
1	夜須小	①6年家庭科 ②5・6年音楽 35・6年外国語(週1) ④4年音楽 ⑤単元を決めて相互に授業実施予定	・教員の授業時間数軽減 ・専門性の高い教員による指導 ・複数教員による学級・児童の状況把握	・時間割の調整(行事等による調整、単元の時間数の相違など) ・教科担任制導入にあたって教員不足
2	香我美小	①4・6年理科 ②5年理科 ③5・6年音楽	・高学年学級担任の負担軽減 ・専門的知識・専門的技能を有する指導者による指導で、授業内容が深まる。	・行事等のための時間割変更が難しい ・専門性を有する教員の確保
3	吉川小	①理科専科 ②6年家庭科 ③3～6年音楽	・より専門的な指導が可能となる。 ・小学校担任は空き時間がないので、実験準備に手間取るがその点専科教員は、時間確保が容易である。 ・6年生担任に空き時間を作ることができる。	・行事等による時間割変更に対応しにくい。
4	赤岡小	①4年音楽 ②5・6年音楽 ③5年理科 ④6年体育	・専門性の高い教員の指導を行うことによって、児童の学習意欲が高まるとともに、充実した学習活動に取り組むことができる。 ・中学校の教科担任制へのスムーズな移行につながる。 ・担任に時間的な余裕ができることによって、学級経営や校務分掌等に力を注ぐことができ、労働意欲の向上にも繋がっている。	・専科教員については、勤務時間の制限により、学習後の支援や個別指導が難しい。また学級担任と十分な連携・協働をする時間の確保が難しい。 ・体育については、他学年との時間割の調整や担当する教員の学級の状況等により、度々実施が難しい場合がある。
5	野市東小	①理科専科(3-6年) ②音楽専科(3-6年)	・理科については、専科教員が準備から授業、片付けと行うため、学級担任の業務軽減となっている。専科教員も、理科についての系統的な教材研究を深めることができている。 ・音楽についても、専門的な指導をしてきているため、児童の表現・技能等の定着・向上とともに、学級担任の負担軽減ともなっている。	・数年来、理科専科による授業を実施しているが、全国・県版学調の結果に、成果が反映されていない。基本的な知識理解の定着を図るため、宿題やプリント等の補充学習を、学級担任と連携しながら実施する必要がある。 ・音楽については、コロナ禍でリコーダー奏や歌唱等、通常通りの授業が行えてないことが課題である。教科担任制としての課題はない。
6	野市小	①理科(4・6年)家庭(6年) ②外国語(3～6年) ③理科(5年) ④音楽(3～6年)	・指導者が複数学年を受け持つことで、系統性をより意識した授業ができ、授業の質を向上させることができている。 ・多くの教員が児童に関わることで、多面的に児童を捉えることができ、児童のがんばりを認める機会が増えた。 ・学級担任の負担軽減につながっている。	・時間割の融通が利きにくいこと。コロナ等の関係で学級閉鎖が生じた場合など、時間調整が難しかった。 ・本校では実施していないが、交換授業は1学年3学級の場合、時数のバランスがとりにくい。 ・専科教科の指導、特に外国語の指導技術が身に付かない。
7	佐古小	①算数 5・6年 ②音楽 4・5・6年 ③理科 3年 ④社会・理科(5・6年) ⑤体育 6年	・専門性の高い教員による高度な学習を含めた指導力向上と児童の学力向上 ・複数教員が関わることで児童の多面的な理解ができる ・授業準備のための時間の確保と、教材研究の時間削減による働き方改革	・単元レベルでの指導計画の調整を図る。 ・学年経営を基軸にした取組にしてい ・専門性などに対応できる力量のある先生だけが高学年を持つことになるイメージが強くなり、担任する学年が固定化される。 ・授業と家庭学習の連動 ・補充学習の必要な児童への手立て

①県加配 ②県加配中学校免許取得